



株式会社 越智製作所

“SDGs”事業統合戦略計画

-SDGsアクションプラン2030-



2023年4月17日



Contents

1. 経営責任者のコミットメント … 7
2. ガバナンス … 11
3. リスクマネジメント … 12
4. 中期ビジョン … 21



0.1. 目的

株式会社越智製作所は、「あなたの想いに、寄り添い続ける」を基本理念に掲げ、「多様な想いの化粧筆を創造する」という志のもと、さまざまな用途に応じた筆を提供する企業である。“熊野筆の歴史と伝統”を受け継ぎ、“誠実と謙虚”を重んじ、“心の豊かさ”を社会へ届けられる組織を築き上げ、社員一丸となって広く社会に貢献していくことをめざしている。

これらの事業を通じた取り組みが、現時点において「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標項目に照らしてどの程度実践されているのかを評価し、中・長期事業戦略に SDGs を統合することで、持続可能な発展を目指す基本計画を明らかにすることを目的としている。

0.2. 対象組織及び範囲

- 対象組織：株式会社越智製作所 本社（一部、海外子会社 中国工場・ラオス工場を含む）
 - ・ 中国工場：天津東方妝材有限公司
 - ・ ラオス工場： LAO OCHI COSMETIC BRUSH Co., Ltd.
- 範囲：本事業統合戦略計画の範囲は、当社が展開する事業による社会課題解決のための取り組みすべてである。
- 提供する製品：お化粧用ブラシ、スポンジアプリーケーター、パフ、ポーチ及びケース
- 主要製品の特長：

- ・ **熊野で最も歴史の長い化粧筆メーカー**

「筆の都」として国内の毛筆の約八割を生産する広島県安芸郡熊野町の中でも、化粧筆においては最も歴史の長い老舗専門メーカーです。昭和 10 年の創業以来、創業者である越智清智は職人として日夜紅筆の穂先作りに励み、二代目の越智文雄に引き継がれてからも化粧筆一筋に邁進してまいりました。

- ・ **国内最大の実績**

取り扱いブランドは国内大手化粧品メーカーを中心に 150 社以上にも及び、手掛けた品種はデータベース化されたこの 4 年間だけでも 2000 アイテムを超えました。そして生産能力はグループ全体で月産 150 万本を超えました。現在では、海外やサロン業界及び量販店への展開も視野に入れ、より多くの人に OCHI の化粧筆を使っただけけるよう営業に励んでおります。

- ・ **熊野筆の歴史と伝統を受け継いだ高品質**

整毛や仕立てはもちろん、あらゆる工程で昔ながらの伝統の手法を取り入れて筆を作ります。機械やハサミに頼らず、ほとんどの工程を手作りで丹念に仕上げることにより、熊野本社はもちろん中国工場においても高品質を維持しています。特に中国工場では、工程の細分化、マニユ



アル化を推し進め、長い時間をかけて職人育成し、日本の品質レベルに劣らない技術を備えています。

・ **海外拠点を活用した低価格**

お客様の要望によりコストダウンを追求し、中国へ委託生産をしましたが何度も失敗を繰り返し、苦悩の末 1991 年中国に自社工場設立を決断しました。当時はまだインフラも整っておらず、多くの課題を抱えた中でそのままに戦いでしたが、今ではようやく職人も育ち、品質管理体制も強化され、積極的に中国生産を薦めることができます。コストダウンはメーカーの責務と位置づけ、今後も更なるコストダウンに挑戦します。

・ **設計から納品までのサポート体制**

培った経験を活かし、設計段階から積極的にご提案をさせていただくことにより、より良い商品作りに貢献します。

また、単なる中国製品の商社ではなく、責任を持って独自の検品により不良品を徹底排除し、納期に最善を尽くします。



■ 事業部門：生産技術部

- 開発課（お客様の想いや創造を形にして新しい可能性に挑戦）
- 生産技術課（熊野筆の歴史と伝統を活かした技術で筆の魅力を追及する）
- 海外事業課（多様なニーズに対応してコストダウンを追求する）

生産管理部

- 生産管理課（多様なブランドブラシをパッケージ収納まで計画を立てて納品）

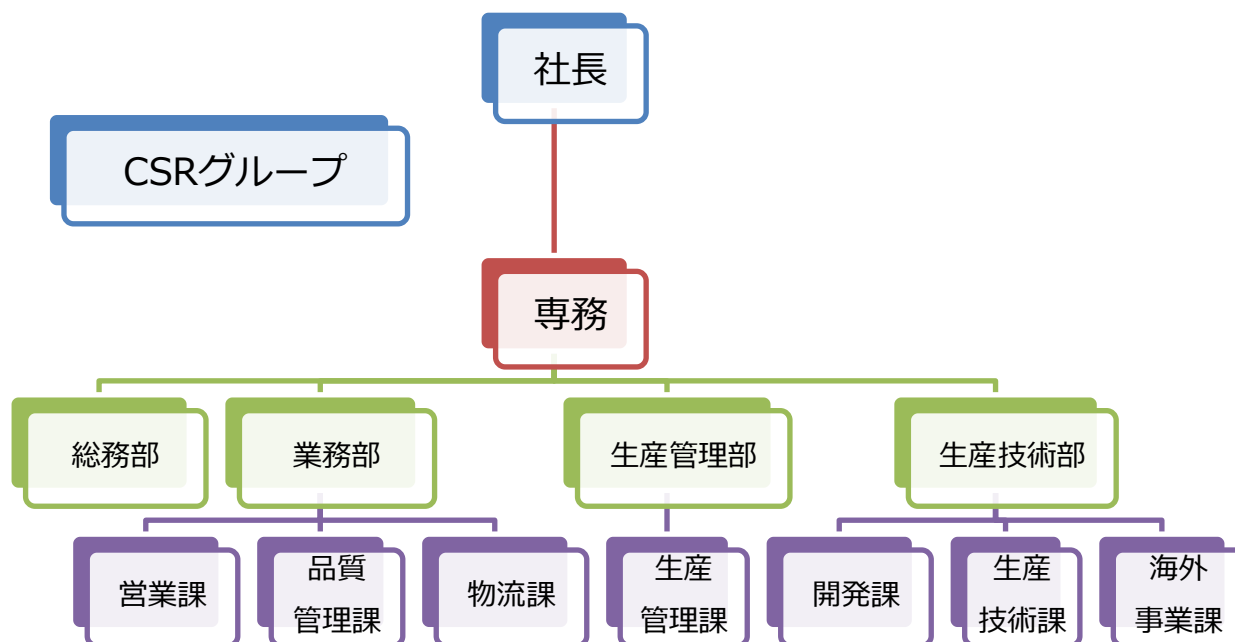
業務部

- 営業課（誠実にそして謙虚な対応を心掛けるお客様対応の窓口）
- 品質管理課（仕入から出荷まで常に行き届いた検査を実施）
- 物流課（国内出入庫や海外輸出入の業務を円滑に進行する）

総務部（会社の財務と組織の労務を統括して管理する）

- CSRグループ（組織の社会的責任を明確にして社会貢献に取り組む）

■ 組織図：





0.4. 本計画及び取組報告の対象期間

本事業戦略計画は、2022年1月から2030年12月までの中期計画とする。

0.5. 適用基準・ガイドライン

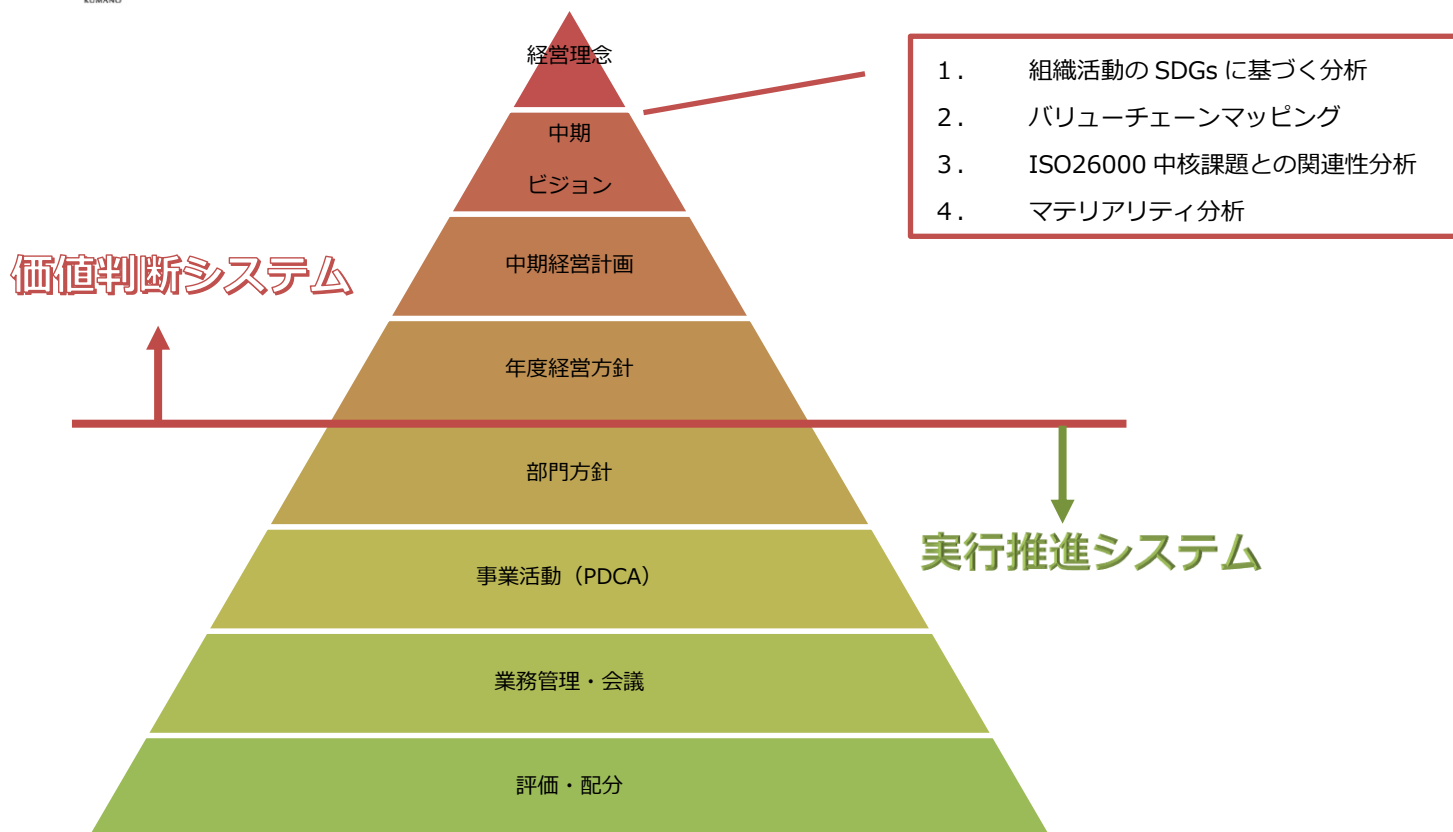
本計画の策定に当たっては、E（環境）S（社会）G（ガバナンス）に関する当社の取り組みと、SDGsの達成に向けた成果の報告を意図していることから、環境省が示す、環境報告ガイドライン（2018年版）を参考にしつつ、SDGsへの取組の枠組み策定に関してはSDGs Compassを参考にした。

また、ISO26000における社会的責任における7つの中核主題をベースとして、我々の取組とSDGsとの関連性を明確にし、我々が取り組むべき課題の枠組み作りに参考として利用している。

- ・「持続可能な開発目標（SDGs）」
- ・環境報告ガイドライン 2018年版
- ・SDGs Compass
- ・ISO26000
- ・持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド（環境省 平成30年6月）

0.6. 株式会社越智製作所のSDGs事業統合戦略計画の全体像

株式会社越智製作所では、事業を行うにあたり、組織を取り巻く外部、内部の環境におけるリスクと機会をSDGsが示す17の社会課題に照らし、特定している。これらにより特定されるリスクと機会は、以下の事業計画策定プロセスに組み込まれ、株式会社越智製作所が事業を通して、直面する様々な社会課題にどのように取り組み、社会課題解決につなげていくかを示すものである。



1. 経営責任者のコミットメント

1-1 経営理念

基本理念「あなたの想いに、寄り添い続ける」

志「多様な想いの化粧筆を創造する」

制定日：2023年4月1日

1-2 サステナビリティ方針

株式会社越智製作所は、経営活動を通して、社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくために以下の方針を掲げる。

この方針は、当社および関連する場合には当社のお取引先についても適用することとする。

サステナビリティ基本方針

株式会社越智製作所は、熊野筆の歴史と伝統を受け継ぎ、化粧筆の製造・販売を通して社会課題の解決を目指し、持続可能な社会づくりに貢献するために、以下の事項に取組みます。

1. 当社のみならず、当社の取引先を含め、すべての人々の人権を尊重します。



2. 従業員の健康・安全を第一に考え、労働環境の向上に努め、多様性を重視し、人材活躍推進に取り組めます。
3. 従業員は当社にとって最も重要な資本であり、従業員の能力開発やキャリアアップのための枠組みを確立し、教育訓練や支援策への投資を推進することで組織の能力向上に努めます。
4. 良心に基づいた倫理判断で公正な職場と健全な取引関係を構築、並びに適正な労働条件の提供に努めます。
5. 私たちの事業活動は地球環境に依存しており、生物多様性を含む地球環境の保全と気候変動問題の改善ならびに持続可能な調達に努めます。また、私たちは錫、タンタル、タングステン、金などの紛争鉱物は一切使用しません。
6. 事業展開する国・地域の文化・慣習を尊重し、地域社会との調和に努めます。
7. 安全・安心に使用できる高品質の製品を提供し、お客さまおよび化粧筆を使用するみなさまの精神的健康と美に貢献します。
8. 児童労働・強制労働・人身売買の撲滅に努め、当社ではこれらに関わらないことを約束します。
9. 法令を遵守し、腐敗防止と堅牢なガバナンス体制の構築、維持を約束します。

倫理方針・行動規範

【倫理方針】

株式会社越智製作所は良心に基づいた倫理判断で公正な職場と健全な取引関係を築きあげ、仕事を通して社会の発展に貢献していきます。ビジネスはフェアであることを基本とし、社会を豊かにすることを使命とします。

【行動規範】

1. 法令及び企業倫理の遵守 私たちは、法令を遵守し、公明正大な企業活動を推進します。また、事業活動に関係する各国の法令に対応するため社内体制を整備し、その周知徹底と遵守に努めます。
2. コンプライアンス通報窓口と通報者の保護 社内規程に基づき、法令違反行為等に関する通報窓口を設置しています。不正行為等の早期発見と是正に努めるとともに不正行為が明らかになった場合には、速やかに是正措置および再発防止措置を講じます。また、通報者等に対しては、いかなる不利益な取扱いも行いません。
3. 贈収賄等の防止 公明正大な企業活動を継続するため、贈収賄、強要、その他の形態による



腐敗的行為並びに資金洗浄（マネー・ローンダリング）に関わることは行いません。

4. 過剰な贈答・接待の禁止 コンプライアンス・マニュアルを遵守し、常識の範囲を超えるような贈答や接待を行いません。また、お取引先様からの接待・贈答などの提供の申し入れに対して慎重に対応し、個人的な利益供与は受けません。
5. 情報開示 当社グループのすべてのステークホルダーの皆様に対して、企業情報を適時・適切に開示し、企業経営の透明性の確保に努めます。
6. 知的財産権の保護 自らによって生み出された知的財産を適正に権利化し、活用することにより企業価値の向上を図ります。また、知的財産権を尊重し、他者の権利を無断で使用したり、自らの権利を濫用することはいたしません。
7. 公正な営業活動の実践 グローバルに事業活動を行うにあたり、各国の法令を遵守します。ビジネスはフェアであることを基本とし、不正取引、反競争的行為を排除し、公明正大な取引を行います。

労働安全衛生方針

株式会社越智製作所は、職場の安全と従業員の健康を守り、事故・災害「ゼロ」実現のため全社一丸となって安全衛生活動に取り組みます。

また、従業員の労働環境に常に配慮し、適正な労働条件の提示と従業員の人権と権利の保護、および対話を促進することで、より良い職場づくりを目指します。

【労働安全衛生基本方針】

1. 全従業員が安全最優先の考え方や行動がいつでも自然にできるよう、社内での教育・情報伝達等を行います。
2. 業務実施にあたっては、いついかなる場合でも安全の基本ルールを守り、不安全行動・不安定状態を徹底的に排除します。
3. 従業員の心と体の健康保持増進のため、健康診断やコミュニケーション等を通じた健康管理、メンタルヘルス対策を推進します。
4. 従業員の適正な労働条件・環境の維持、改善と、人権・権利の保護のために従業員代表と定期的な対話の機会を設けるとともに、すべての従業員からの要望に耳を傾け、よりよい職場づくりを目指します。



環境方針

株式会社越智製作所は、地球環境・自然資本に依存していることを自覚し、限られた資源の有効利用、取水・排水、廃棄物、大気など環境への負荷軽減、地球温暖化対策、人や生物への健康と安全への配慮に努めます。この方針は、当社のみならず、当社の取引先、当社の製品の使用者やステークホルダーを幅広く考慮します。

【環境基本方針】

1. 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の低減、化学物質等に伴う環境汚染の防止・適切な取り扱いに努めます。
2. エネルギー使用量の削減に努め地球温暖化対策として、CO2削減に努めます。大気汚染を防止するため、エコドライブの実践、最新規制適合ディーゼル車や低公害車の導入を推進します。
3. 使用する原材料等について、持続可能な調達及び消費に努めます。
4. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、社員の環境保全意識の向上を図り、地域の環境保護活動に積極的に貢献します。
5. 原材料、副資材、水など資源の有効利用を念頭に削減に努め、廃棄物の発生抑制、適正処理、リサイクルを推進します。これにはお客様が使用した後の製品においてもリユース・リサイクル可能な製品となるような製品設計上の考慮もすすめていきます。
6. 環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境保全活動の継続的な改善に努めます。



2. ガバナンス

株式会社越智製作所が事業を通して社会的責任を果たしていくうえで、すべてのステークホルダーの関心事を考慮し、事業を設計、実行、評価、情報開示を行う適正な企業統治機能が備わっていることが重要であると考えます。

株式会社越智製作所が、SDGsの達成のための本事業戦略計画を実践するために、以下のような企業統治機能（ガバナンス）を確立し、実践する。



委員会名	委員会機能	開催頻度
SDGs推進委員会	<ul style="list-style-type: none">・ 社会課題のマテリアリティ分析・ マテリアリティ分析結果によるリスクと機会の評価及び対応計画の策定・ SDGsアクションプランの作成及び進捗報告・ Ecovadis、その他取引先からのESG関連調査アンケートへの対応	年1回

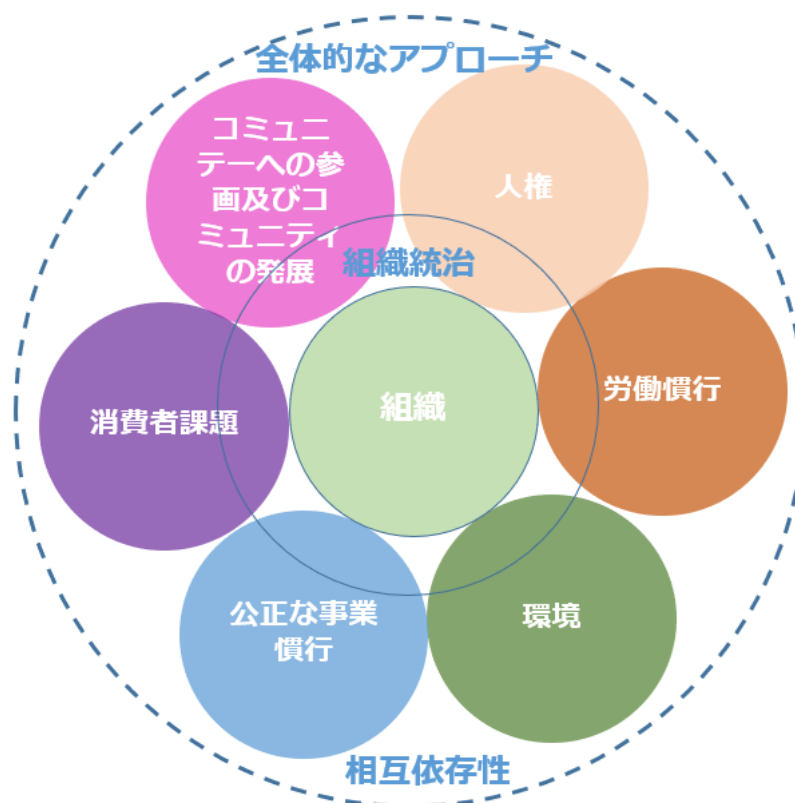


3. リスクマネジメント

株式会社越智製作所では、ISO26000の中核主題及び、SDGsの17の目標をベースとして、当社が事業活動により実施している取組み、事業の成果として生み出しているパフォーマンスとの関連性を整理し、「リスクと機会」に置き換え、事業計画策定のインプット情報としている。この事業計画策定プロセスの中で当社が直面している社会課題の内、どの社会課題を優先的に解決し、持続可能な発展につなげていくかにつて、3.1関連性分析⇒3.2バリューチェーンマッピング⇒3.3マテリアリティ分析の流れで特定している。

このプロセスにより特定された課題は、中期ビジョンと単年度計画によってブレイクダウンされ、リスクと機会のマネジメントを実施することとしている。

3-1 組織の取組とISO26000の中核課題、SDGsの関連性分析



株式会社越智製作所は、ISO26000の中核主題をベースとして、自社の体制と取組を分析し、関連性を以下のように整理し、さらに、それらの取組とSDGsの17の目標との関連性を紐づけした。



OCHI
KUMANO

ISO26000 中核主題	SDG	活動の内容
1 組織統治		<ul style="list-style-type: none"> ・取締役における適正な経営の監視・監督 ・責任の明確化と適切な経営資源の配分 ・内部・外部コミュニケーション ・コンプライアンスと腐敗防止 ・従業員に向けた事業方針説明会による方針の徹底
2 人権		<ul style="list-style-type: none"> ・安全で健康的な労働環境形成 ・ジェンダー平等、女性活躍 ・外国籍従業員の権利の平等 ・ハラスメント問題への配慮
3 労働慣行		<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ（多様性の尊重） ・産休・育休の取得しやすい環境 ・従業員と雇用主との労働条件に関するコミュニケーション ・シニア人材の活躍 ・シニアのマネジメント人材の開発と派遣 ・安全な職場環境（有機溶剤、労働災害）
4 環境		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の削減 ・温室効果ガス排出量削減 ・水使用量の削減 ・馬、ヤギ、イタチ等の獣毛の使用における生物多様性配慮 ・筆のハンドル部における木質原料、金属の持続可能性 ・筆の原材料として使用する樹脂等の廃棄物とリサイクル
5 公正な事業 慣行		<ul style="list-style-type: none"> ・公平、公正な取引の推進 ・利益相反の回避
6 消費者課題		<ul style="list-style-type: none"> ・製品の品質管理 ・化粧ブラシにおけるアレルギー問題 ・ニーズにあった化粧ブラシの提供による「美」への貢献
7 コミュニテ ィへの参画及 びコミュニテ ィの発展		<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティとの連携強化と地域貢献 ・地元からの労働力確保 ・地元の仕入先、外注先の利用による産業振興 ・熊野筆のブランド訴求と、地域活性化への貢献

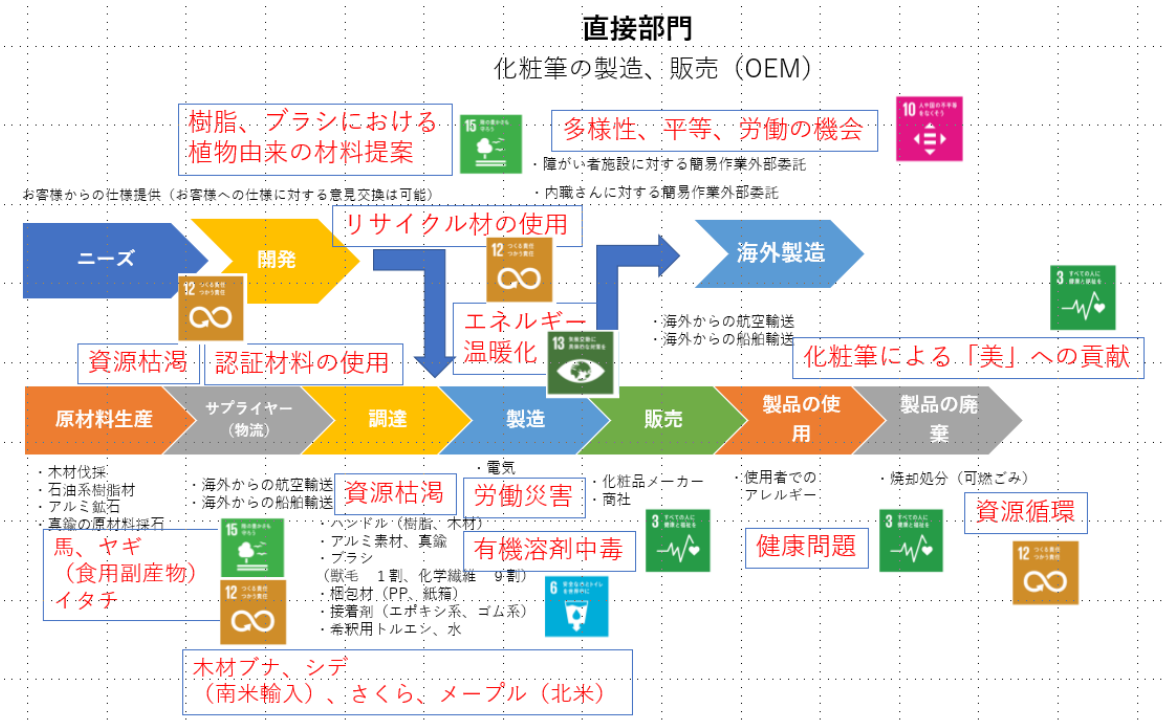


3-2 バリューチェーンマッピング

3.1で分析し、紐づけた越智製作所の活動を、バリューチェーンに落とし込み、SDGsCompassが示す、バリューチェーンにおける「正の影響の強化」の側面、「負の影響の最小化」の側面に分け、該当するSDGsを事業ごとにマッピングしました。

直接部門

正の影響の強化



負の影響の最小化

直接部門「正の影響の強化」

■ サプライヤー：

[①] サプライヤーにおいて、より低炭素な物流やサプライヤーにおけるGHG排出量削減、人権や持続可能な調達へのコミットメントなどを促すことで社会課題の解決につながるサプライチェーンが確立できる。

■ ニーズの明確化、開発：

[②] お客様と共に、化粧品筆で使用する材料の植物由来への変更、リサイクル材への変更を検討す



ることで環境に配慮した製品開発につながる。

- [③] お客様と共に、化粧筆で使用する材料について環境や人権に配慮した認証材の使用の可能性を検討することで、上流工程での環境負荷や社会課題の解決に貢献する。

■ 製造：

- [⑥] 製造工程において省エネルギー、再生可能エネルギーの使用に努めることでエネルギー課題の解決に貢献し、さらには温室効果ガスの排出削減にも貢献できる。
- [⑦] 製造工程で、ハンディキャップを持った方々の積極的な採用や、内職要員への簡易作業の外注によって、労働の機会を提供し、働き甲斐や生きがいを多様な人々に提供することに貢献できる。

■ 製品の使用：

- [⑧] 多様なニーズにマッチする化粧筆の提供により、化粧による「美」による精神的な喜びや健康に貢献できる。

直接部門「負の影響の最小化」

■ 原料生産：

- [⑨] 化粧筆の原材料となる獣毛等に関して、食用副産物のみの獣毛を使用し、かつ獣毛を極力使用しない化粧筆に移行することで生物多様性に配慮、貢献できる。
- [⑩] 化粧筆のハンドル部で使用する木材や金属類に関して、違法伐採材の不使用やリサイクル金属類を使用することで自然資本の保全に貢献できる。

■ 製造：

- [⑪] 製造工程での不良率低減、資源の有効利用により資源枯渇の抑制に貢献できる。
- [⑫] 労働災害の発生防止、安全パトロール、危険予知活動などの推進により安全な労働環境の維持に貢献できる。
- [⑬] 有機溶剤の使用現場において、MSDS等の製品情報の周知と、適切な使用を徹底することで有機溶剤中毒等の事故を防止し、従業員の健康の維持に貢献できる。

■ 製品の使用：

- [⑭] 化粧筆のブラシ部分において使用段階でアレルギー反応が生じうる物質を排除又は、注意喚起を確実にすることにより、製品使用者側での事故やトラブルを回避することに貢献できる。

■ 製品の廃棄：

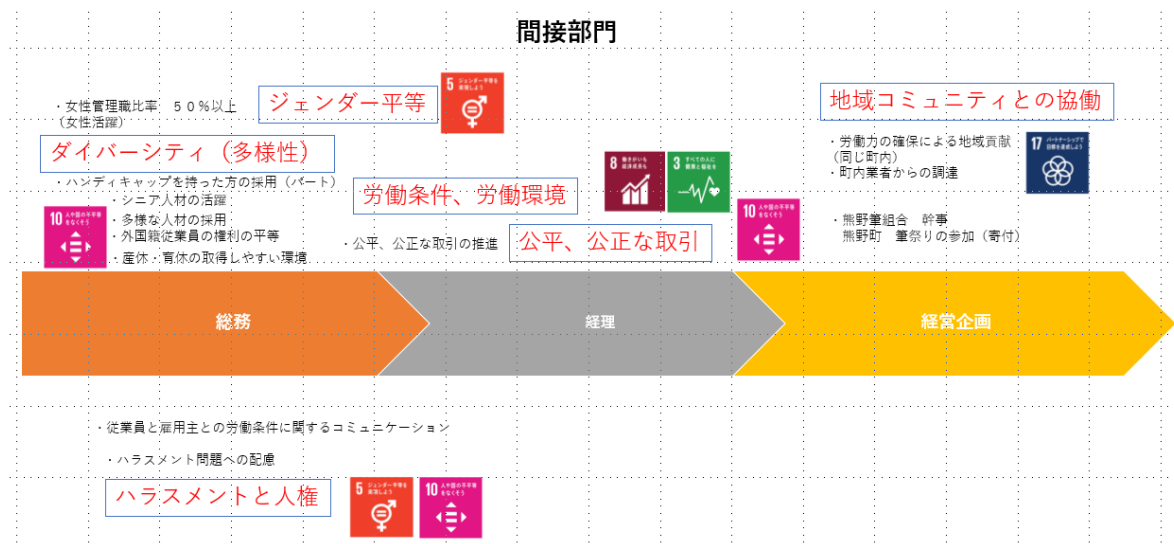
- [⑮] 化粧筆をリサイクルしやすいように分解できる製品設計にすることで、分別が可能となり製品使用後のリサイクルで廃棄物低減に貢献できる。



OCHI
KUMANO

間接部門

正の影響の強化



負の影響の最小化

間接部門「正の影響の強化」

■ 総務・人事：

- [16] 女性活躍を推進し、女性管理職比率を高めることでジェンダー平等の達成に貢献できる。
- [17] ハンディキャップを持った方や、シニア人材、多様な人材の採用により、平等に労働の機会を提供し、働きがいと生きがいを提供することに貢献できる。
- [18] 外国籍従業員に対して差別なく、平等な労働条件の提示と人権を確保することで多様な人材
- [19] 産休・育休の取得しやすい環境づくりと有給休暇の取得を促し、ワーク・ライフ・バランスを尊重した職場環境が形成できる。

■ 経営企画：

- [20] 労働力を地域に依存していることから、地域振興のために町内行事、政策に協力することで住みよいまちづくりに貢献する。
- [21] 熊野筆の地域ブランドを化粧筆メーカーとして高め、地域の産業発展に貢献する。



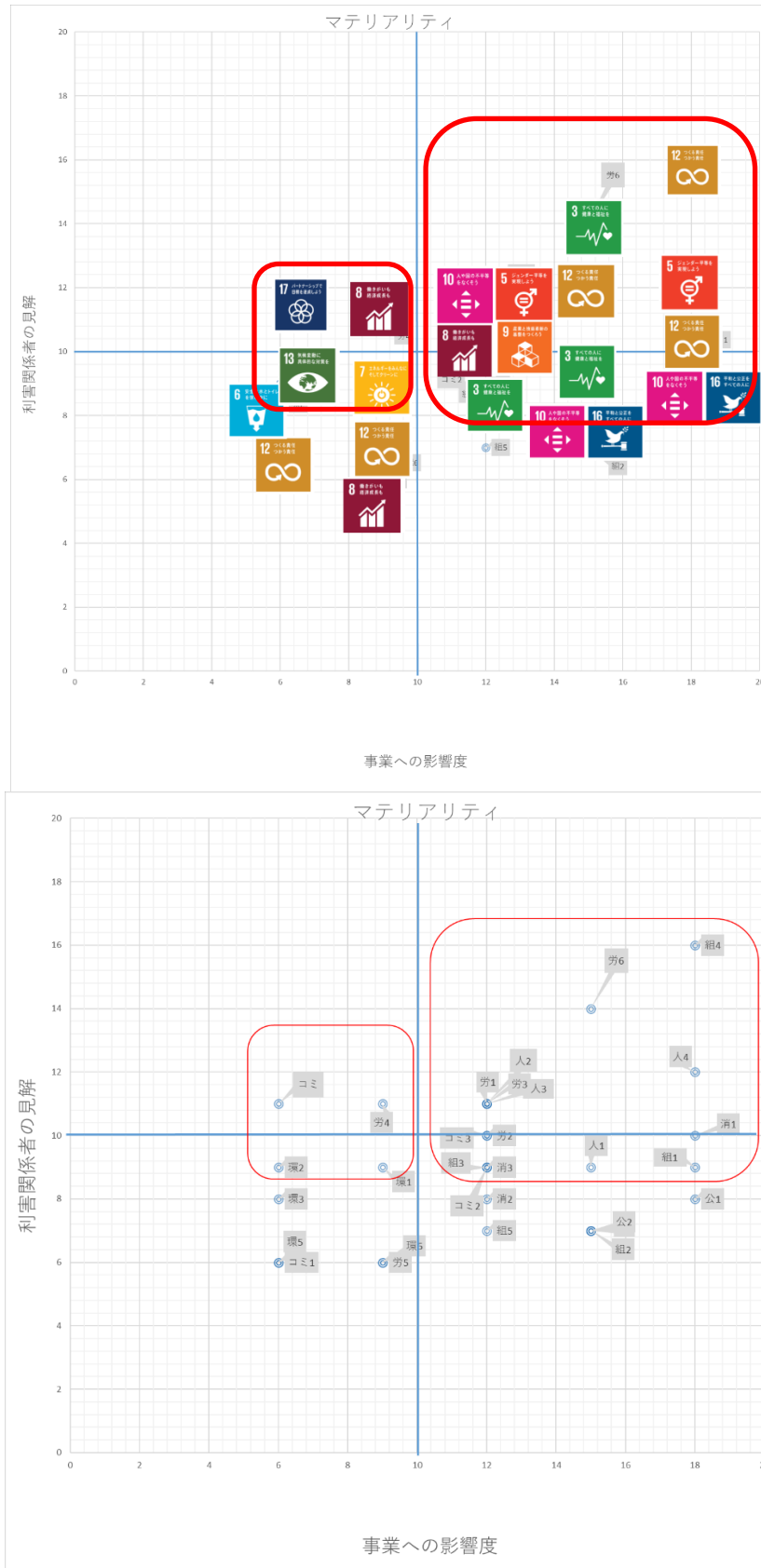
負の影響の最小化

■ 総務・人事：

- [②] 労働者と雇用主との間で、適切な労使に関するコミュニケーションの機会を確保し、法規制の順守のみならず、適正な収入の確保ができる職場づくりに貢献できる。
- [③] あらゆるハラスメントに関する問題の発生を防止し、通報者の権利を保全するとともに人権に配慮した経営を実践することで、安心して働ける組織を実現する。



3.3マテリアリティ分析の結果





ISO26000					
中核主題	SDG	活動の内容	活動No.	事業への影響度	利害関係者の見解
1 組織統治		取締役における適正な経営の監視・監督	組1	18	9
		責任の明確化と適切な経営資源の配分	組2	15	7
		内部・外部コミュニケーション	組3	12	9
		コンプライアンスと腐敗防止	組4	18	16
		・従業員に向けた事業方針説明会による方針の徹底	組5	12	7
2 人権		・安全で健康的な労働環境形成	人1	15	9
		・ジェンダー平等、女性活躍	人2	12	11
		・外国籍従業員の権利の平等	人3	12	11
		・ハラスメント問題への配慮	人4	18	12
3 労働慣行		・ダイバーシティ(多様性の尊重)	労1	12	11
		・産休・育休の取得しやすい環境	労2	12	10
		・従業員と雇用主との労働条件に関するコミュニケーション	労3	12	11
		・シニア人材の活躍	労4	9	11
		・シニアのマネジメント人材の開発と派遣	労5	9	6
		・安全な職場環境(有機溶剤、労働災害)	労6	15	14
4 環境		・エネルギー使用量の削減	環1	9	9
		・温室効果ガス排出量削減	環2	6	9
		・水使用量の削減	環3	6	8
		・馬、ヤギ、イタチ等の獣毛の使用における生物多様性配慮	環4	15	7
		・筆のハンドル部における木質原料、金属の持続可能性	環5	6	6
		・筆の原材料として使用する樹脂等の廃棄物リサイクル	環6	9	6
5 公正な事業慣行		・公平、公正な取引の推進	公1	18	8
		・利益相反の回避	公2	15	7
6 消費者課題		・製品の品質管理	消1	18	10
		・化粧ブラシにおけるアレルギー問題	消2	12	8
		・ニーズにあった化粧ブラシの提供による「美」への貢献	消3	12	9
7 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展		・地域コミュニティとの連携強化と地域貢献	コミ1	6	6
		・地元からの労働力確保	コミ2	12	9
		・地元の仕入先、外注先の利用による産業振興	コミ3	12	10
		・熊野筆のブランド訴求と、地域活性化への貢献	コミ4	6	11

分析方法概要：

越智製作所は、3.1で取り上げた事業活動について、利害関係者の見解、事業への影響度をそれぞれ詳細に数値化し、スコアにすることで当社としてのマテリアリティ（重要度分析）を行った。

1. 社会課題の特定：

1-1

越智製作所では、SDGsの17のGoalと社内で認識している課題をもとに、組織が事業を通して解決しなければならない社会課題を明確化した。

1-2



3.2で整理した越智製作所におけるバリューチェーンのプロセスとSDGsの17のGoalに対する正の影響の増大要素、負の影響の軽減要素の関連性を含め、取り組むべき内容を30項目特定した。

2. 重要度評価

2-1

特定した30項目の取り組むべき内容について、当社の事業への影響（X軸）とステークホルダーの関心事（Y軸）の2軸で評価を行った。

2-2

評価した結果をScore化し、分布図を示したうえで、第4象限に分布した項目を中心に当社にとって重要な項目を特定した。

利害関係者の見解は、現時点においての関心度合いに加えて、現時点では高くないまでも2030年の時点で当然のように関心を寄せているであろうという予測を踏まえて、ESGの関心の高まりを考慮している。

今後は、さらに利害関係者の見解について、ステークホルダーとのコミュニケーションを通して毎年見直していく予定である。

このマテリアリティ分析の結果から、グラフの4象限における右上のエリアにプロットされたSDGsの目標項目を、越智製作所において優先して取り組むべき課題と捉え、第4項の通り特定した。



4. 中期ビジョン

越智製作所は、SDGsへの取組のマテリアリティ分析結果と、ESGの観点を踏まえ、以下のように2030年までの重点施策を決定しました。

	環境（E）	社会（S）	ガバナンス（G）
SDGs			
	<p>ターゲット6.3. 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。</p> <p>ターゲット7.2. 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。</p> <p>ターゲット12.4. 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p> <p>ターゲット12.5. 2030年までに、廃棄物の発生</p>	<p>ターゲット3.9 2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。</p> <p>ターゲット5.1 あらゆる場所における全ての女性及び女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。</p> <p>ターゲット5.4. 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。</p> <p>ターゲット8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに 同一労働同一賃金を達成する。</p>	<p>ターゲット10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。</p> <p>ターゲット16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。</p> <p>ターゲット16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。</p> <p>ターゲット17.17. さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

	<p>防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p> <p>ターゲット13.1. 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。</p>	<p>ターゲット8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。</p> <p>ターゲット9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p> <p>ターゲット9.5. 2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとする全ての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。</p> <p>ターゲット10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを 通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。</p> <p>ターゲット16.1 あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。</p>	
--	---	---	--



OCHI
SUMANG

<p>ISO26000 の中 核主題と課題</p>	<p>環境： 課題① 汚染の予防 課題② 持続可能な資源の利用 課題③ 気候変動緩和及び適応</p>	<p>人権： 課題⑦ 経済的、社会的及び文化的権利 課題⑧ 労働における基本的原則及び権利 労働慣行： 課題① 雇用及び雇用関係 課題② 労働条件及び社会的保護 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展： 課題① コミュニティへの参画 課題③ 雇用創出及び技能開発 課題④ 技術の開発及び技術へのアクセス</p>	<p>組織統治： 公正な事業慣行： 課題④ バリューチェーンにおける社会的責任の推進</p>
<p>重点施策/実施 項目</p>	<p>1. 温室効果ガスの削減活動推進 2. 水消費量適正管理 3. その他の環境負荷の低減</p>	<p>1. 労働災害の撲滅 2. 多様性の向上と女性活躍推進 3. ハラスメントの撲滅と人権保護 4. 人的資本への投資拡大</p>	<p>1. 公正な事業慣行の徹底 2. 育児による就業障壁の排除とワークライフバランスへの配慮</p>

これらの重点施策を具現化するための実践項目を以下のように中期目標として設定いたします。

ESG 分類	重点施策	2030 年度目標	2023 年度推進計画						
<p>環境 (E)</p>	<p>1. 温室効果ガス排出量の削減推進</p>	<p><基準年を2019年として温室効果ガス排出量の削減を2030年までに大幅に削減する></p> <p>目標 当社の当社及び海外子会社（中国、ラオス）において消費する電力の削減につとめ、2030年までに2019年比で20%削減する。 ※基準年排出量 2019年</p> <table border="0"> <tr> <td>Scope1</td> <td>87t-CO2/年</td> </tr> <tr> <td>Scope2</td> <td>253t-CO2/年</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>340t-CO2/年</td> </tr> </table>	Scope1	87t-CO2/年	Scope2	253t-CO2/年	合計	340t-CO2/年	<p><基準年を2019年として温室効果ガス排出量の削減を2030年までに大幅に削減する></p> <p>2023年1月～12月で、2019年比で7.3%削減を目指す。 (20%/ (2030年—2019年) × (2023年—2019年))</p> <p>従業員に対して、省エネ活動に関する教育を実施し（1回/年）、効率的な生産と、残業時間の削減、無駄な電気の使用を排除により会社全体での温室効果ガス削減の取組を推進する。</p>
Scope1	87t-CO2/年								
Scope2	253t-CO2/年								
合計	340t-CO2/年								



ESG 分類	重点施策	2030 年度目標	2023 年度推進計画
		<p>※目標年 2030 年における排出量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Scope1 (2019 年の Scope1×80% = 70t-CO2) ・ Scope2 (2019 年の Scope2×80%=202t-CO2) <p>合計 272t-CO2/年</p> <p>取組内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 従業員に対して、省エネ活動に関する教育を実施し、効率的な生産と、残業時間の削減、無駄な電気の使用を排除により会社全体での温室効果ガス削減の取組を推進する。 2) 本社で使用する電力の契約メニューに関して、再生可能エネルギー由来の電力やより低排出係数の電力メニューへの切り替えを試みる。 3) 電灯や工場生産設備の更新の際には、より省エネ効果の高い機器・設備類への更新に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員への省エネ教育の推進 (1 回/年) ・ 本社の全電力使用量の集計 (毎月) ・ 設備更新の際に従前の設備より省エネ性能が高いことの確認 (設備更新時) 	
	2.水消費量適正管理	<p><水消費量及び排水負荷のモニタリングの継続></p> <p>目標</p> <p>水の使用量は多くはないが、本社、中国、ラオスにおける水使用量を継続的にモニタリングし、水資源の有効利用につとめる。</p> <p>また、水の排水基準の順守のために中国の子会社においては法規制に従ったモニタリングを行い不順守の未然防止する</p> <p>取組内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各事業所において、毎月の水使用量をモニタリングする。 2) 中国の事業所においては、排水基準を満たしていることを定期的にモニタリングし、記録を保持する。 3) 水の有効利用のために中国の事業所において水循環、再利用を推進する <p>指標</p> <p>年間の水使用量、中国事業所の排水基準</p>	<p><水消費量及び排水負荷のモニタリングの継続></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各事業所において、毎月の水使用量をモニタリングする。 2) 中国の事業所においては、排水基準を満たしていることを定期的にモニタリングし、記録を保持する。 3) 水の有効利用のために中国の事業所において水循環、再利用を推進する
	3. その他の環境負荷の低減	<p><その他の環境負荷低減への取組></p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 騒音発生の要因となるコンプレッサーや車両においては騒音を防止するために適切な防音対策を施す。 2. 有機溶剤の使用による VOC の排出を適切に管理する 	<p><その他の環境負荷低減への取組></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンプレッサー置場の防音囲いを行い、騒音が大きくならないように対応する。(扉を閉めて稼働させる)



ESG 分類	重点施策	2030 年度目標	2023 年度推進計画
		<p>3. 廃棄物の発生抑制に努め、法規制に従った廃棄物処理を適切に実施するとともにリサイクルの推進に協力する。</p> <p>4. お客様における当社製品の使用による健康被害の撲滅に努める。</p> <p>取組内容</p> <p>1) コンプレッサー置場の防音囲いを行い、騒音が大きくならないように対応する。(扉を閉めて稼働させる)</p> <p>2-1) 日本における有機溶剤の使用においては、適切な換気と人体への影響が及ばないよう作業手順を定める 2-2) 中国の事業所においては成型機及び換気設備に VOC 除外装置を設置し、適切な対応を行う</p> <p>3-1) 産業廃棄物置場を常に清潔に保ち、法に従った表示とともに、許可業者によって適切な廃棄物処理を行う</p> <p>4-1) 当社製品の使用に伴う、お客様からのアレルギー等の発生に伴うクレームをモニタリングし、健康被害の発生抑制と改善に努める</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音のクレームの有無 ・中国事業所における VOC の検査報告書の適正な結果 ・産業廃棄物の排出量 (特別管理 (有害)、産廃排出量 (非有害)、産廃処理方法におけるリサイクル処理に回った量) ・当社製品の使用によるお客様からのアレルギー関連のクレーム件数 	<p>2-1) 日本における有機溶剤の使用においては、適切な換気と人体への影響が及ばないよう作業手順を定める 2-2) 中国の事業所においては成型機及び換気設備に VOC 除外装置を設置し、適切な対応を行う</p> <p>3-1) 産業廃棄物置場を常に清潔に保ち、法に従った表示とともに、許可業者によって適切な廃棄物処理を行う</p> <p>4-1) 当社製品の使用に伴う、お客様からのアレルギー等の発生に伴うクレームをモニタリングし、健康被害の発生抑制と改善に努める</p>
<p>社会 (S)</p>	<p>1.労働災害の撲滅</p>	<p><安全な職場づくりとモニタリング></p> <p>目標</p> <p>労働災害の撲滅のために、労働災害度数率、強度率をモニタリングし、数値の改善を目指す。</p> <p>取組内容</p> <p>1) 労働災害撲滅のために月 1 回安全衛生定例会議を実施し、ヒヤリハットの振り返りと危険予知活動を行う。</p> <p>2) 労働災害度数率、強度率を毎年モニタリングする</p> <p>指標</p>	<p><安全な職場づくりとモニタリング></p> <p>1) 労働災害撲滅のために月 1 回安全衛生定例会議を実施し、ヒヤリハットの振り返りと危険予知活動を行う。</p> <p>2) 労働災害度数率、強度率を毎年モニタリングする</p>



ESG 分類	重点施策	2030 年度目標	2023 年度推進計画
		・労働災害度数率、強度率	
	2.多様性と女性 活躍推進	<p><女性活躍推進のためのモニタリング></p> <p>目標 女性の従業員比率、管理職比率が十分高いため、現状維持又は、50%以上を維持する。</p> <p>取組内容 女性の働く環境の整備と、十分な配慮を行い、引き続き女性活躍できる組織作りを目指す。</p> <p>指標 ・女性の全従業員に占める割合 ・女性管理職の管理職総数に占める割合</p>	<p><女性活躍推進のためのモニタリング></p> <p>女性がより働きやすい環境を確保するためのアンケートを実施し、職場改善につなげる</p> <p>【参考】2022 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の全従業員に占める割合：88% ・管理職総数に占める女性の割合 33.3%（部長以上） 37.5%（課長以上）
	3.ハラスメント の撲滅と人権の 保護	<p><ハラスメントの撲滅></p> <p>目標 あらゆるハラスメントを撲滅し、心地よい労働環境の維持と、人権の保護を徹底する。</p> <p>取組内容 1) ハラスメント防止のための教育を推進する 2) ハラスメントの発生未然防止のためにアンケートによってモニタリングする</p> <p>指標 ・ハラスメント教育の実施回数 ・ハラスメント防止のアンケート実施回数</p>	<p><ハラスメントの撲滅></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ハラスメント防止のための教育を推進する (1 回/年) 2) ハラスメントの発生未然防止のためにアンケートによってモニタリングする (1 回/年)
	4.人的資本への 投資拡大	<p><人材育成の推進による組織力強化></p> <p>目標 人材の教育を推進し、組織力を強化する</p> <p>取組内容 会社で指定する技能研修への参加と資格取得を支援する。 ・フォークリフト運転免許 ・射出成型機技能講習</p> <p>その他、従業員の希望により資格、講習会参加を支援する社内研修の推進による技術力向上</p> <p>指標 ・資格取得、講習参加者への支援件数 ・社内教育訓練の実施時間</p>	<p><人材育成の推進による組織力強化></p> <p>会社で指定する技能研修への参加と資格取得を支援する。 ・射出成型機技能講習 1 名程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識共有・若手育成・継承目的の社内研修の推進 (10 時間程度/1 コース) ・社内研修の推進による技術力向上 ・その他、従業員の希望により資格、講習会参加を支援する



ESG 分類	重点施策	2030 年度目標	2023 年度推進計画
		社内研修の推進 10 時間程度/1 コース	
ガバナンス (G)	1.公正な事業慣行の徹底	<p><公正な事業慣行徹底のための組織体制の確立></p> <p>目標</p> <p>公正な事業慣行の徹底のために、贈収賄防止、反競争的行為、腐敗防止に関する従業員の教育を実践することで、コンプライアンス意識の高い企業文化を形成する</p> <p>取組内容</p> <p>企業倫理に関する従業員教育を年 1 回実施し、従業員の意識向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業倫理に関する教育訓練の実施回数 (1 回以上/年) ・ 倫理に関する研修を受けた従業員の割合 (%) または人数従業員対比 100% (正社員) 	<p><公正な事業慣行徹底のための組織体制の確立></p> <p>企業倫理に関する従業員教育を年 1 回実施し、従業員の意識向上を図る</p>
	2.育児による就業障壁の排除とワークライフバランスへの配慮	<p><産休、育休、有給休暇の取得推進></p> <p>目標</p> <p>産休、育休、有給休暇が取得しやすい職場を推進し、ワークライフバランスを考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇取得率 100% (希望者対象) <p>取組内容</p> <p>産休、育休、有給休暇の取得を推進する職場環境を整備する</p> <p>指標</p> <p>産休、育休、有給休暇の取得率</p>	<p><産休、育休、有給休暇の取得推進></p> <p>産休、育休、有給休暇が取得しやすい職場を推進し、ワークライフバランスを考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇取得率 100% (希望者対象) <p>【参考】2022 年実績 (本社全対象者に対する割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産休取得率： 100% ・ 育休取得率： 女性：100%、男性：100% ・ 有給休暇取得率： 96.1% (対象：本社全従業員)